

【平成21年度事業報告書】

1. 企業支援事業

1. 収支決算額

- 収入決算額:44,506,870 円 (予算額:43,355,000 円)
 (国庫補助金 2,355,000 円、県補助金 1,498,000 円、
 市負担金 24,367,000 円、事業収入 2,286,870 円、繰越金 14,000,000 円)
- 支出決算額:38,054,981 円 (予算額:43,355,000 円)

2. 事業の成果

- ・経済の不安定な状況が続く中で受注促進を推進し、43 件の成約が確定した。また、交渉継続中の案件を含め、受注斡旋件数 562 件を得ることができた。
- ・各種展示会へ地域企業と共同出展し、燕三条地域ものづくりのPRと受注活動を推進した。
- ・首都圏在住の産業振興アドバイザーによる企業誘致活動を 28 回行った。
- ・さいたま市で展示会を開催し 45 社・団体の出展、372 名の来場を得た。
- ・企業においてITを有効活用できるよう、企業向けパソコン講座、出張講座、受託研修を開催した。また、ITサポート支援では企業からの相談を受け支援を行った。
- ・最新の企業支援情報や燕三条地域の新製品、注目商品等をセンターホームページから情報発信した。

3. 実施事業

(1) 企業支援事業(収入決算額 13,536,000 円、支出決算額 12,347,006 円)

① 受注促進事業

1) 企業訪問による受注促進

県外企業訪問を中心に地域企業技術をPR。受注促進と新分野開拓を推進した。

i) 引合い件数

	受注斡旋				引合い 件数	各種 相談
	成約	見積 依頼	対応企業 紹介	不成約		
平成21年度	43件	70件	437件	12件	562件	189件
平成20年度	50件	89件	427件	12件	578件	234件

ii) 企業との受発注打合せ件数

	地域内 (市内) 企業訪問	地域外 (県内) 企業訪問	県外企業 出張訪問	県内企業 来室 打合せ	県外企業 来室 打合せ
平成21年度	503件	43件	95件	268件	192件
平成20年度	515件	56件	154件	272件	213件

2) 販路開拓アドバイザー活動

首都圏における受発注促進事業を効率的に進めるため、3名のアドバイザーを委嘱し、展示会での販路開拓等の活動を行った。

3) 登録企業約 500 社へ向け、受発注情報「産業振興部ニュース」を発行(全 19 回)

4) 販路開拓アドバイザーによる市場動向報告会の開催

- ・日 時:平成 22 年 3 月 11 日(木) 午後 1 時 20 分～午後 4 時
- ・会 場:リサーチコア 6 階 マルチメディアホール
- ・参加者数:31 名

② 地域ものづくり支援事業

各地で開催された工業技術見本市に出展し、地域企業の製品サンプル・新商品等を展示PRし、受注拡大を図った。

1) 見本市への出展

展示会名称	開催期間	入場者数	照会件数
第13回 機械要素技術展(東京展)	6/24～6/26	75,266名	112件
東京国際航空宇宙産業技術展	11/27～11/29	21,821名	170件
テクニカルショウヨコハマ2010	H22 2/2～2/5	28,693名	68件
第14回 おおた工業フェア	H22 2/17～2/20	5,007名	103件

2) 新聞・展示会出展者名簿への地域技術PR広告の掲載(日刊工業新聞に年6回掲載)

1. 企業支援事業

③ 専門家派遣事業

地域企業が抱える問題解決のため、専門家を直接企業へ派遣して助言を行った。 指導回数:38件(21社)、指導者数:15名

④ 異業種交流グループ活動支援

グループ登録数 21グループ

⑤ 金属と漆の融合事業

金属素材と漆との組み合わせにより「和」の個性を表現した製品開発を進めるため、チタン製品に漆を塗布する試作を行った。

(2) 産業技術ネット構築事業

(収入決算額 4,783,000 円、支出決算額 4,721,137 円)

西日本最大の展示会「関西機械要素技術展」に、販路開拓アドバイザーと連携しながら関西の企業を中心に情報発信を行なうため、地域企業5社と共同出展とし、来場者及び出展者に対して当地域の技術をPR・技術情報交流を進め、「新規取引先の開拓」「企業間連携の実現」の推進を行った。

また、出展後、当地域に関心を示した企業に対して販路開拓アドバイザーと一緒にフォローアップ活動を展開した。

名称	第12回 関西機械要素技術展		
会期	平成21年10月6日(水)～8日(金)		
会場	インテックス大阪		
入場者数	31,373人		
実績	商談成立	1	件
	見積依頼	3	件
	企業紹介	18	件
	その他(名刺交換等)	116	件

(3) 産業立地支援事業

(収入決算額 1,091,000 円、支出決算額 1,030,643 円)

首都圏在住で当地域の企業動向に精通した中小企業診断士3名を企業誘致アドバイザーとして委嘱。各種展示会や独自の情報収集により選定した企業を訪問し、当地域を中心とした技術紹介や進出後のメリットの説明、決め細かなアフターフォローなどのセールスポイントをPRし企業誘致を行った。

・企業誘致活動 28件

(4) 首都圏企業ビジネス連携事業

(収入決算額 14,000,000 円、支出決算額 12,112,651 円)

景気の悪化に伴う受注量の減少に対応するため、新たな取引先の開拓を目指し当地域の企業・技術力を直接PRするため、地域企業とともにさいたま市で展示・商談会を開催した。

名称	燕三条わざともの展
会期	平成21年10月15日(木)～16日(金)
会場	大宮ソニックシティ
出展者数	45社・団体
入場者数	372人

特別講演会

○「酒造りの正道と販売戦略」

朝日酒造(株)常務取締役 平澤 誠 氏 参加者 40名

○「人を減らすな！在庫を減らせ！～本流トヨタ方式～」

(株)コスト研究所 代表取締役 田中 正知 氏(元トヨタ生産調査部長)
参加者 30名

(5) 支援情報事業

(収入決算額 11,096,870 円、支出決算額 7,843,544 円)

① 企業向けパソコン講座の開催

1) 「Excelを使って学ぶ原価計算/原価管理」

- ・期 日:平成21年5月19日(火)～6月5日(金) (全6回)
- ・講師:タナカビジネスブレーン
- ・参加者:20名

2) 「PowerPoint 入門講座」

- ・期 日:平成21年6月16日(火)～23日(木) (全3回)
- ・講師:ITサポーター 田辺 信一
- ・参加者:9名

3) 「PowerPoint ビジネス活用講座」

- ・期 日:平成21年7月23日(木)～8月11日(火) (全6回)
- ・講師:ITサポーター 田辺 信一
- ・参加者:7名

1. 企業支援事業

4) 「パソコン超入門講座」

- ・期 日:平成 21 年 10 月 9 日(金)～10 月 16 日(金) (全 2 回)
- ・講 師:IT サポーター 田辺 信一
- ・参 加 者:25 名

5) 「すぐ使える Excel 活用講座-マネジメント編-」

- ・期 日:平成 21 年 10 月 8 日(木)～29 日(木) (全 6 回)
- ・講 師:タナカビジネスブレン
- ・参 加 者:20 名

6) 「Word でチラシを作ろう！チラシ作成講座」

- ・期 日:平成 21 年 11 月 18 日(水)～20 日(金) (全 3 回)
- ・講 師:IT サポーター 田辺 信一
- ・参 加 者:13 名

7) 「Excel VBA 入門講座」

- ・期 日:平成 22 年 2 月 22 日(月)～26 日(金) (全 3 回)
- ・講 師:IT サポーター 田辺 信一
- ・参 加 者:20 名

② 情報関連機器の貸出

貸出機器名	貸出件数	料金	備 考
パソコン	15 件	632,000 円	情報研修室、貸出し用 PC
プロジェクタ 他	10 件	38,500 円	

③ 研修、教育用ビデオテープの貸出し

- ・貸出し件数:277 件
- ・貸出し本数:966 本

④ メールマガジンの発行

- ・毎月 2 回 年間 24 回配信
- ・掲載情報件数:358 件
- ・3 月末メルマガ配信登録数:622 件

⑤ 書籍・資料・文献等の閲覧

各種技術・情報等に関する図書・文献を収集し、資料室に整理し閲覧に供した。

⑥ 三条市・燕市兼用の産業カレンダーの発行

A3 サイズ 3,500 枚、カードサイズ 5,500 枚を作成し頒布した。

⑦ ビジネス情報等の提供

センターホームページから、企業向けの支援情報、イベント、セミナー等のビジネス情報やセンター主催事業の年間スケジュールを掲載した。
・ビジネス情報掲載件数:378 件

⑧ ITサポート支援

企業からのIT関連の相談に対し支援を行った。

- ・相談、支援申込み事業所等:15 件
- ・相談、支援回数:25 回

⑨ IT出張講座

企業に出向いてIT関連講座を開催した。

- ・事業所数:2 社
- 開催回数:2 件

⑩ IT受託研修

企業単位での IT 関連研修を受託した。

- ・事業所数:3 社
- 開催回数:11 件

⑪ 新商品、注目商品紹介の紹介

燕三条地域企業の新商品や注目商品をホームページ「快適！ファミリー 100%」にて紹介した。

- ・年間紹介商品数:16 品

2. 技術高度化支援事業

1. 収支決算額

- 収入決算額:27,509,150 円 (予算額:25,380,000 円)
(県補助金 5,440,000 円、内田エネルギー科学振興財団助成金 800,000 円、市負担金 14,534,150 円、事業収入 6,735,000 円)
- 支出決算額:24,846,619 円 (予算額:25,380,000 円)

2. 事業の成果

- ・基礎および応用のための技術習得を目的に技術研修を 6 講座行い、延べ 139 名(定員 90 名)が受講し、地域企業の基礎技術向上を進めた。また管理技術者を育成のためのセミナーを行い、24 名が聴講した。
- ・経済の低迷が続く中、休業を余儀なくされている企業の従業員を合同教育訓練するための講習会を実施し、延べ 110 社、1,555 名が受講した。
- ・新規分野への参入を図るため航空機産業参入研究会を立ち上げ、57 社 64 名の参加により、11 回の研究会を実施し、基礎知識の習得と参入の支援を行った。
- ・技術PRと販路開拓を目的に、東京都大田区で「にいがた燕三条技術交流展in東京」を開催した。当地域企業の 57 社を中心に全体で 79 団体が出展し、2 日間の来場者は 873 名となり、多くの開発や技術連携のきっかけを作った。
- ・主に新潟県内の大学生を対象とした学生ビジネスプランオーディションを行い、22件の提案から 1 件の最優秀賞、2 件の優秀賞などを選定し、商品化のためのフォローを行った。
- ・接合技術研究会など 3 つの技術研究会を組織し、会員は延べ 62 社、83 名で合計 17 回の研究会を行った。

3. 実施事業

(1) 企業人材育成事業

(収入決算額:6,391,000 円、支出決算額:5,233,799 円)

① 技術研修事業

地域企業で従事する初心者および中堅技術者向けの各種技術研修を実施し、地域企業の技術力向上を進めた。

研修事業名	募集人数	実績人数	開催時期
1.金属材料基礎講座 (2時間×12回)	20	22	5/20～8/4
2.図面の見方・描き方入門講座 (2時間×12回)	20	38	8/17～9/29
3.機械設計基礎講座 (2時間×12回)	15	15	6/4～9/3
4.プレス加工集中講座 (3時間×3回)	15	32	10/29～11/19
5.プラスチック成形技術講座 (3時間×4回)	10	18	9/1～9/15
6.知財活用技術講座 (3時間×3回)	10	14	2/24～2/26
合計	90	139	

② 管理技術者育成セミナー

- ・内 容:現場リーダーおよび管理職級技術者のための、生産管理などの管理手法を習得するための講習会を実施した。
- ・講習日:平成 22 年 2 月 23 日および 3 月 2 日(3 時間/日)
- ・講 師:技術経営研究センター代表 松井武久氏 技術士(機械部門)
- ・テーマ:「環境変化の激しい時代に製造業が発展するための戦略と管理技術者の役割」
- ・受講者:24 名

③ 緊急経済対策による企業人材育成講習会

長引く経済の低迷の中、休業を余儀なくされている企業を対象に、材料や生産管理およびビジネスマナーなど 1 日単位の講習会を開催した。
また、企業内で行う教育訓練のため、14 回(9 社)の講師派遣を行った。

- ・第 1 期:平成 21 年 6 月 12 日～8 月 7 日(全 9 回)
(延べ受講者数:710 名)
- ・第 2 期:平成 21 年 8 月 21 日～10 月 2 日(全 6 回)
(延べ受講者数:504 名)
- ・第 3 期:平成 22 年 3 月 5 日～3 月 26 日(全 4 回)
(延べ受講者数:341 名)

2. 技術高度化支援事業

(2) 技術支援事業

(収入決算額:18,309,150 円、支出決算額:16,986,673 円)

- ① 新技術・新材料応用研究会 (地域企業 26 社 26 名)
主にサーボプレスなどプレス加工関連技術および機能性めっき技術など優れた材料技術を持つ企業からの講演等による、合計 5 回の研究会を行った。
- ② 航空機産業参入研究会 (地域企業 57 社 64 名)
航空機および航空関連産業分野への参入を目的に、(株)ATR ヤマト代表取締役の吉田宗玄氏をコーディネーターに迎え、専門家の講演会や関連分野の分担調査および空港の特別見学会など、11 回の研究会を実施し、参入のため活動を続けた。
- ③ 専門家および技術職員による企業指導、コーディネート
機械設計や伝熱技術等に関する技術相談について、専門の研究者や技術者を招聘し6回の技術指導を実施した。併せて職員は83件の技術相談に対応した。
- ④ 知的所有権相談事業
ジーベック国際特許事務所の所長で弁理士の清水善廣氏を相談員に招聘し、特許、実用新案、商標、意匠などの知的所有権について、合計43回(17社)の相談を行い、7件の意匠や実用新案などの出願・登録につなげた。
- ⑤ にいがた燕三条技術交流展 in 東京の開催
優れた技術力を有する当地域企業のPRと販路開拓を行うため、首都圏の展示ホールを借り切り、技術展示会を開催した。
・会 期:平成21年12月3日(木)~4日(金)
・会 場:大田区産業プラザPiO(東京都大田区南蒲田1-20-20)
・出 展 者:79 団体(燕三条地域企業 57、県外企業 6、自治体 2、商工団体 4 業界団体 3、大学・研究機関 6、主催者 1)
・入場者数:873 人
・照会件数:164 件(試作、図面照会、見積もり依頼等)
- ⑥ ビジネスプランオーディション事業
新潟県内の学生が燕三条地域に関連する商品やイベント企画などのビジネスプランを考えることで、当地域の関心を深めるとともに、当地域企業の活性化を図るためのコンテストを行った。応募総数は 22 件で、最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件及び特別奨励賞 1 件を選出し、優秀なアイデアについては当地域企業とマッチングを進めている。

(3) 産学共同開発事業

(収入決算額:2,809,000 円、支出決算額:2,626,147 円)

- ① 接合技術に関する研究会(指導者 1 名 地域企業 32 社 35 名)
指導者に長岡技術科学大学 宮下幸雄准教授を迎え、主にステンレス鋼薄板の溶接に関する最新の溶接機器に関するセミナーを5回実施した。また溶接技術に関する工場見学会も実施した。さらに昨年に引き続きフェライト系ステンレス鋼およびマルテンサイト系ステンレス鋼のTIG溶接試験を行い、継手の強度特性を評価した。
また、オープンセミナーとして溶接学会と共催でステンレス材料の溶接施工技術の講習会を行い、43名が受講した。
- ② 自動化制御技術研究会(指導者 1 名 地域企業 14 社 22 名)
指導者に長岡技術科学大学 木村哲也准教授を迎え、会員企業の要望に基づき、アクチュエータや電気技術の基礎、シーケンサ制御に関する初中級の学習や実習および機械安全技術についての7回のセミナーを行った。また、制御技術に関連した工場見学会も実施した。

【機械設備利用状況】

設 備 名 称	平成 21 年度	平成 20 年度
蛍 光 X 線 分 析 装 置	50	—
レ ー ザ ー マ ー カ ー	16	33
走 査 型 電 子 顕 微 鏡	27	15
高 速 度 デ ジ タ ル ビ デ オ カ メ ラ	0	3
デ ジ タ ル マ イ ク ロ ス コ ー プ	15	11
立 型 マ シ ニ ン グ セ ン タ	1	1
万 能 塑 性 加 工 試 験 機	3	6
D r . H I P 装 置	49	87
雰 囲 気 熱 処 理 装 置	2	5
3 次 元 デ ジ タ イ ジ ン グ 装 置	16	10
3 次 元 C A D シ ス テ ム	10	5
F E M 解 析 シ ス テ ム	1	4
切 れ 味 試 験 機 (包 丁・鋏)	1	2
合 計	191	182

3. デザイン企画事業

1. 収支決算額

- 収入決算額:16,572,600 円 (予算額:16,443,000 円)
(市負担金 16,132,600 円、事業収入 440,000 円)
- 支出決算額:14,195,539 円 (予算額:16,443,000 円)

2. 事業の成果

- ・地域企業に対し、55 件 68 回の商品企画・デザインに対する個別相談へのアドバイスをを行った。
- ・デザイン性の高い商品の販路開拓のため、首都圏のデザインイベントに出展し、地域のデザイン力の高さをPRした。
- ・デザイン賞を受賞した地域企業の受賞発表イベントを開催し、デザイン啓発を行った。
- ・企業ロゴ、パッケージなど、地域に必要とされるビジュアルデザインに対する意識向上のためのイベントを開催、190 人の参加があった。
- ・成功している企業は経営者のデザイン意識が高いことから、次世代の経営者に対する勉強会を開催した。
- ・デザインギャラリー有効活用のため、3 回のイベントと 6 回の貸し出しを行い、地域のデザイン関連の団体、教育機関に対する活動支援を行った。
- ・地域デザイン研究会、県内デザインネットワークの活動支援を行った。
- ・提案性が高いヒット商品を生み出し、地域企業に波及効果をもたらすため、新商品企画開発支援事業を開催。5 社 8 テーマの新商品開発を支援した。

3. 実施事業

(1) デザイン支援事業(収入決算額 10,768,600 円、支出決算額 8,870,329 円)

① デザイン開発支援

1) デザイン開発支援

- ・内 容:地域企業が抱える商品企画・デザイン相談に対し、当センターデザイン専門家及び外部アドバイザーが個別対応し、助言を行った。内容により外部デザイナーとのコーディネートを行った。
- ・相談件数:55件 68 回(昨年度 33 件)
※ 内、外部デザイナーへの取次ぎ 5 件

2) デザイン評価制度活用支援、情報発信

- ・内 容:優れたデザインの商品を表彰するGマーク(グッドデザイン賞)2次審査品の一般公開イベント「GOOD DESIGN EXPO」に出展。

当地域より応募された一次審査通過商品を展示し、地域のデザイン力の高さを来場者にPRした。

また、受賞した商品のPRと取組み企業の拡充を図るため、新潟県内の受賞発表会をデザインギャラリーイベントとして行った。

『GOOD DESIGN EXPO 2009』

- ・開 期:平成 21 年 8 月 28 日～30 日
- ・会 場:東京ビッグサイト
- ・来場者数:43, 321 人
- ・展 示 数:14 社 22 点

『グッドデザイン賞 新潟県内受賞発表会』

- ・ミニ講演:『G マークが企業にもたらすもの』
講師:(財)日本産業デザイン振興会 事業部 課長 浅賀 武 氏
- ・開 期:平成21年 11 月 18 日
- ・会 場:リサーチコア3F デザインギャラリー
- ・来 場 者:50人

3) 外部専門家とのビジネスマッチング支援

「新潟DNA『リ・デザイン エキシビション』」開催

- ・内 容:パッケージ・ロゴマーク・HPなどデザインを見直したい地域企業を募集。応募のあった6社に対しデザイナーとのマッチングを行い、一般聴講者の前で公開プレゼンテーションを行った。
- ・開 期:平成22年1月23日
- ・会 場:リサーチコア3F デザインギャラリー
- ・来 場 者:190人

4) デザインマネジメント力向上支援

『デザイン経営塾』開催

- ・内 容:次代の経営者にデザインの重要性を促すことを目的に、募集した7社に対し、企業講師を招いたワークショップを開催した。
- ・開 期:平成21年7月1日～9月24日(全5回)
- ・コーディネータ:(株)コボ 代表取締役社長 山村 真一 氏
- ・企業講師:(株)スノーピーク 代表取締役社長 山井 太 氏
TOTO(株) 衛生・TS販売G 伊藤 孝子 氏
(株)坂本乙造商店 代表取締役社長 坂本 朝夫 氏
峯特許事務所 弁理士 峯 唯夫 氏

3. デザイン企画事業

② デザインマインド向上支援

1) デザインギャラリー企画展、シンポジウムの開催

・内 容: デザイン啓発を目的としたイベント、講演会等の開催

名 称 / 開 期 / 内 容	来 場 者
『グッドデザイン賞 新潟県内受賞発表会』 ※内容 前述	50 名
『新潟 DNA『リ・デザイン エキシビション』 ※内容 前述	190 名
デザインフォーラム『切り拓く・・・未来』 ・講 師: (株)アクアデザインアマン 代表取締役 天野 尚 氏 ・開 期: 平成 22 年 3 月 30 日 ・会 場: リサーチコア 7 階 マルチメディアホール ・内 容: 第 1 部・自然から学ぶ商品開発 第 2 部・発想の原点・・・アマゾン	60 名

常設展示「Gマーク 2008 受賞商品」の展示

昨年度受賞したGマーク商品の展示

常設展示「Gマーク 2009 受賞商品」の展示

本年度受賞したGマーク商品の展示

2) デザインギャラリー活用支援

・地域のデザイン・美術団体・教育機関のギャラリー活用に対する支援

名 称 / 開 期 / 内 容
『アミュゼ作品発表展』 平成 21 年 9 月 20 日～22 日 写真の展示
『第 7 回 山田昌男写真技法講座生作品展』 平成 21 年 11 月 13 日～15 日 写真の展示
『第 54 回創象会展』 平成 21 年 12 月 4 日～6 日 絵画・造形の展示
『全日本写真連盟第 8 回県央支部写真展』 平成 22 年 1 月 29 日～31 日 写真の展示
『県立三条テクノスクール修了作品展』 平成 22 年 2 月 5 日～2 月 7 日 三条テクノスクールの終了作品の展示
『2010 デザインコンクール表彰式』 平成 22 年 3 月 8 日～12 日 燕市デザインコンクール受賞製品を展示

③ デザイン団体活動支援

1) 燕三条地域デザイン団体の活動支援

・つばめデザイン研究会事務局

総会・例会: 2 回

・三条デザイン研究会事務局

総会・例会: 12 回、役員会: 5 回、分科会: 33 回

2) 県内デザインネットワーク活動支援

・県内デザイン 5 団体のネットワーク(新潟DNA)と協力し、デザインギャラリーイベントを開催した(前述)

(2) 新商品企画開発支援事業

(収入決算額5,804,000円、支出決算額5,325,210円)

新商品開発の入口から出口までを継続支援し、提案型新商品開発による販路拡大と開発の仕組みづくりの確立を目的としたワークショップを開催した。

・コーディネータ: (株)クルー代表取締役 馬場 了 氏

・知財コーディネータ: 峯特許事務所 弁理士 峯 唯夫 氏

① 「感動商品開発室 2008」(継続)

・内 容: 昨年度作成した商品テーマに対し、デザインマネジメント、流通戦略等のワークショップを開催すると共に、商品化に向けデザイナーとのマッチングを行った。

・期 間: 平成21年4月15日～平成21年6月11日(全3回)

・参加企業: 2社3テーマ(・インテリア用品・キッチン用品)

② 「感動商品開発室 2009」(新規)

・内 容: 地元企業より公募したテーマを元に、商品開発研修を交えたワークショップを開催。開発手法を学びながら、テーマの見直し、首都圏ユーザーニーズ調査を経て、商品コンセプトの策定を行った。

1) プレセминаー(募集説明会)

・会 期: 平成 21 年 10 月 1 日 ・参加者: 22 名

2) ワークショップ

・期 間: 平成21年10月29日～平成22年3月4日(全9回)

・参加企業: 3 社 5 テーマ(・インテリア用品・キッチン用品・融雪用品)

4. 燕三条ブランド事業

1. 収支決算額

- 収入決算額: 11,088,000 円 (予算額: 11,088,000 円)
(県補助金 3,963,000 円 市負担金 7,125,000 円)
- 支出決算額: 10,510,208 円 (予算額: 11,088,000 円)

2. 実施事業

(1) 燕三条ブランド事業

(収入決算額: 10,088,000 円、支出決算額: 9,543,017 円)

① 燕三条ブランド基本戦略の策定

燕三条ブランド検討委員会の開催(委員数: 25名)

昨年に引き続き三条・燕地域の商工会議所や商工会、農協、観光協会などの代表や役員等で委員会を組織し、実行委員会から提案のあった燕三条ブランドの方向性や組織構成、事業案について検討・承認を行った。

【開催日】 第1回 平成 21 年 7 月 29 日

協議題: 燕三条プライドプロジェクト事業案について

第2回 平成 22 年 1 月 21 日

協議題: 各プロジェクトの事業進捗状況について

② 燕三条ブランド実行委員会の開催

昨年の7月に実行委員会(分科会)から燕三条プライドプロジェクトが事業案として検討委員会に提案され、承認を受けた後、実行委員会(分科会)から燕三条プライドプロジェクトに移行された。

現行では Hub、Tourism、Promotion プロジェクトの大きな3本柱があり、それぞれのプロジェクトはさらに細分化され全16プロジェクトチームで構成されており、現在、14プロジェクトチーム、総勢90名(複数プロジェクト所属者を含む)のメンバーがブランド構築に向けて検討を進めている。

区分	プロジェクト名称	回数	人数
Hub	Organic 地名山野菜、地名食材、水・酒	4回	13名
	Organic Industry 洋食器	0回	5名
	Organic Industry 鋳鉄テーブルウェア	2回	3名
	Organic Industry 男のキッチンツール	4回	4名
	シェフリクルート メニュー開発 店舗デザイン	4回	9名
	立地・町屋発掘		5名
	Organic Industry 農機具・ガーデニング	6回	8名
Tourism	グリーンツーリズム 自然体験	8回	10名
	産業観光拠点化 JR燕三条駅	7回	7名
	Gマーク選定商品 伝統工芸製品+工場見学ルート開発	—	—
	生産、製造体験	4回	6名
	まちあるき まちに触れる・文化体験	10回	9名
Promotion	燕三条ネーミング プロジェクト	3回	7名
	地域向け+ 対外 各プロジェクトのプロモーション	9回	4名

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

③ 企業向けデザイン講座の開催

研修事業名	回数	募集人数	実績人数	開催時期
『デザイン』入門講座	3回	各 50 名	122 名	2 / 12 ~ 2 / 26
『デザイン』講座初級編	3回	各 50 名	117 名	3 / 12 ~ 3 / 26
合計	6回	300 名	239 名	

④ 燕三条ブランドのIDマーク、キャッチコピー等の作成

【委託先】 ㈱左合ひとみデザイン室 代表取締役 左合ひとみ 氏
(東京都世田谷区上用賀 3-9-15)

⑤ 燕三条地域の地域情報の発信

燕三条駅に観光情報等発信機能を付加 (ポータルネットワーク事業)

⑥ 広域観光推進支援(三条観光協会、下田郷観光協会:事務局)

両協会の総会を終えた後、平成 22 年度に事務局が移管される予定。

4. 燕三条ブランド事業

⑦ トキめき新潟国体向けPR

燕三条のものづくりをコンセプトとした観光パンフレット「夢創紀行」と物販パンフレット「夢・モノ創り」を作成し、燕三条で開催された競技会場にて配布を行った。また、開催期間にあわせて県内高速道路上下線のサービスエリアに「夢創紀行」を設置、JRのディスティネーションキャンペーン期間にも東京、上野、大宮駅のほか県内主要駅に「夢創紀行」を設置してPRを行った。

⑧ 情報発信及びモニタリングのため、首都圏展示会に出展

燕三条の過去～現代～将来をコンセプトに、三条商工会議所 青年部及び地域企業4社と共同出展し、ものづくりを中心にPRを行った。展示ブースは13小間確保し、壁面を利用したミュージアム風の造りとし、鋳起銅器の製造工程や手づくり時代の金属洋食器、研磨製品、園芸鋏をはじめとした各種鋏類、JAPANブランド製品など燕三条のものづくりを象徴する製品を展示し、来場者に燕三条のものづくりと一体感を印象付けた。

【展示会名称】 第69回 東京インターナショナル・ギフト・ショー 春2010
『伝統とModernの日本ブランド』
第7回モダンジャパニーズスタイルフェア

【開催期間】 平成22年2月2日～5日

【来場者数】 201,245人

(2) e物産市販路開拓事業

(収入決算額:1,000,000円、支出決算額:967,191円)

① BtoC ショッピングサイトへの地域産品の掲載

ショッピングサイト「につぼんe物産市」へ燕三条地域の食材を掲載し、販売を行った。(掲載数:28品 注文件数:29件 販売額:104,200円)

② 経済産業省『につぼんe物産市プロジェクト』地域プロデューサー活動

1) 商談会への参加

量販店、料飲店との商談会に参加し、銀座の老舗フレンチレストランとの商談が成約した。(提供食材数 2品)

2) 飲食業界向け展示会への出展

2010 スーパーマーケットトレードショーへ出展を行い、地域の生産者とともに商談を行った。出展を経て、3月31日現在で3社と商談中。

(参加生産者数:5名 出品商品数:19商品)

・開催日:平成22年2月8日(月)～10日(水)

・会場:東京ビックサイト東ホール

・来場者数:81,747名

昨年度出展した2009スーパーマーケットトレードショーでの商談を継続した結果、首都圏大手カフェレストランや地方セレクトショップとの商談が成約した。

③ 売れる燕三条ブランド商品づくりサポート会議の設置

三条市燕市の職員及び当センターを事務局として、燕三条地域の生産者と地域産品の販路開拓に向けての会議を行った。

(参加生産者数:6名 開催回数4回)

5. 需 要 開 拓 事 業

1. 収支決算額

○収入決算額:199,417,614 円 (予算額:181,445,000 円)
 (市補助金 18,601,930 円、県補助金 2,633,303 円、事業収入 176,981,381 円、
 予備費 1,201,000 円)

●支出決算額: 58,161,011 円 (予算額:71,385,000 円)

2. 事業の成果

- ・展示・即売事業では、消費者ニーズに合わせた市場性のある販売品目の品揃え及び地場産品の良さを県内外の消費者にPRすることに努めるとともに、自主イベントの開催や各種イベントに積極的な参加を行った結果、ETC休日割引で県外からの来館者が増加したことも加わり、受託販売収入において過去最高の売上につながった。
- ・また首都圏においてアンテナショップとしての販売店舗を設け、燕三条製品の販売や紹介を通じ、広く産地イメージの発信を行うことで、消費者の購買動向などの情報収集と地場産品のPRにより販路拡大を行った。さらに、買換需要創出事業(包丁・鍋の下取り)では、良質な地元製品の販売促進を図るとともに、地域生活者に対し地場産品の再認識を促した。
- ・貸館事業では、業種・地域を越えた各種団体・企業等への積極的な営業活動により、前年を上回る貸館収入があり、事業収入の増加に大きく貢献できた。

3. 実施事業

(1) 展示・即売事業

(収入決算額:85,939,754 円、支出決算額 19,848,662 円)

① 展示	342 小間	収 入	7,186,080 円
② 即売	売上	199,534,719 円	収 入 72,873,365 円
③ 年末刃物特価市	小間料収入	1,075,000 円	

【自主イベント等の内容】

イベント名称	開催期間	来場者数
GW フェア	5/02～ 6 (5 日間)	約 13,700 名
お盆フェア	8/13～16 (4 日間)	約 15,500 名
年末刃物特価市	12/ 4～ 6 (3 日間)	約 14,000 名
観光バス昼食・立寄り	通 年	約 1,120 台

(2) 燕三条駅観光物産センター事業

(事業収入 16,920,663 円、支出決算額 12,366,637 円)

① 展示	222 小間	収 入	3,880,310 円
② 即売	売上	35,067,298 円	収 入 12,725,775 円

(3) 貸館事業 (事業収入 71,325,192 円、支出決算額 2,519,405 円)

【会場利用状況】

・施設利用者数:267,650 名(前年度 276,062 名)

・施設利用率: (単位:%)

施設名	平成 21 年度	平成 20 年度
メッセピア		
1F:多目的大ホール	31.9	33.6
3F:中会議室	32.7	—
4F:大会議室	46.1	41.3
4F:特別会議室	11.1	13.5
4F:小会議室(和室)	30.1	35.5
5F:総合研修室	48.1	44.0
5F:ミーティングルーム	44.5	56.9
リサーチコア		
6F:研修室	30.2	35.8
7F:マルチメディアホール	31.4	29.4

(4) 農商工連携産地製品販売推進事業

(収入決算額:21,595,702 円、支出決算額 19,916,181 円)

店舗名	開店日	売上金額
えちご燕物産館両国店	平成 21 年 10 月 16 日	5,783,052 円
えちご燕物産館町田店	平成 22 年 3 月 13 日	2,891,550 円

(5) 地場製品買換需要創出事業

(収入決算額:3,636,303 円、支出決算額 3,510,126 円)

場 所	期 間	包 丁	鍋
地場産センター	12/ 4～ 6 (3 日間)	1,249	994
えちご燕物産館両国店	12/19～23 (5 日間)	168	—
	合 計	1,417	994

6. 次世代産業創造プロジェクト事業

1. 収支決算額

- 収入決算額:40,000,000 円 (予算額:40,000,000 円)
(市補助金 40,000,000 円)
- 支出決算額:12,824,044 円 (予算額:40,000,000 円)
(収支差額 27,175,956 円は、次年度事業への繰越し分)

2. 事業の成果

世界的に「クリーン発電」への期待が高まっている中で、いまだ課題が多い「風力発電」分野において新たな発想による独創的なシステムを開発し、新分野への参入を目指す。

期間は、平成 21 年 11 月 1 日から平成 22 年 11 月 30 日までとし、平成 21 年度は、翼・ソーラーを組み合わせた本体の理論設計とデザイン設計までを進めた。平成 22 年度は、地域企業からの公募により製作委託先を決定し、製作、組立評価試験・調整、据付けまでを行う。

3. 実施事業

(1) グリーンプロジェクトセミナーの開催

- ・日 時:平成 22 年 1 月 13 日(水) 午後 2 時～4 時 15 分
- ・会 場:リサーチコア 7F マルチメディアホール
- ・内 容:テーマ「日本の温暖化ガス削減施策の動向と新エネルギー」
講 師 三重大学 地域イノベーション学研究科
教授 坂内 正明氏
- ・報 告:「風力発電装置開発の進行状況と今後のスケジュール」
- ・参加者:60 名

(2) 産学官の開発コンソーシアムの構成

- ・設計等業務委託 アイタック(株)
- ・デザイン業務委託 (株)コボ
- ・共同研究委託 長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校
- ・評価試験委託 新潟県工業技術総合研究所

(3) プロジェクト進捗会議の開催(月 1 回程度)

- ・開催回数 4 回

7. 燕三条ブランドポータルネットワーク事業

1. 収支決算額

- 収入決算額:60,160,000 円 (予算額 60,160,000 円)
(市補助金 60,000,000 円、予備費 160,000 円)
- 支出決算額: 6,109,400 円 (予算額 60,160,000 円)
(収支差額 54,050,600 円は、次年度事業への繰越し分)

2. 事業の成果

燕三条ブランドポータルネットワーク事業は、国の平成 21 年度ユビキタスタウン構想推進事業(地域情報通信技術利活用推進事業)である。

燕三条地域の観光と、ビジネスの玄関口である燕三条駅並びに燕三条地場産業振興センターを情報発信拠点と位置付け、ICT 技術を活用した多種の情報コンテンツ等の整備を行い、当地域の産業、観光情報等を地域内外に発信することにより、地域経済の活性化を図ることを目的としている。

事業実施期間は、21 年度及び 22 年度の 2 か年であるが、21 年度は IT 研修に必要なパソコン等機器、ソフトの整備を実施した。県内で IT 機器を数多く備え付けた常設の研修室は見当たらないが、地域内外から IT 機器を利用した多人数の研修会を行う機会が多い。外部利用者への対応のみならず、当センター主催による IT 研修を実施し、地域 ICT 利活用の発展に結び付けたい。

3. 実施事業

(1) 機器等の整備内容

- ①デスクトップ型パーソナルコンピュータ本体(41 台)
- ②ディスプレイ本体(41 台)
- ③アプリケーションソフトウェア
(パワーポイント、ビデオスタジオ、ホームページビルダー他)
- ④プロジェクター(1 台)
- ⑤分配器(1 個)

(2) 機器等の納入者

- (株)NS・コンピュータサービス(長岡市金房 3 丁目 3 番 2 号)

8. 地域企業立地促進等共用施設整備事業

1. 収支決算額

- 収入決算額:14,805,000 円 (予算額:15,000,000 円)
(国庫補助金 7,050,000 円、予備費 7,755,000 円)
- 支出決算額:14,805,000 円 (予算額:15,000,000 円)

2. 事業の成果

大型部品の高精度測定に対応できる多関節型3次元測定機を導入することにより、加工現場での迅速な高精度検査や、高度な品質管理が要求される航空機関連産業分野などへの進出の足掛かりをつかむことが可能となった。

また、現在開発中の小型風力発電装置のブレード形状評価においてモックアップモデルなどのアナログモデルをデジタル化し、CAD上での変更・修正設計(リバースエンジニアリング)への対応が可能となった。

今後は、以下の事業を実施しながら、地域企業の更なる技術高度化を図るために活用する。

- ① 航空機の翼など自由曲面形状の高精度加工技術の開発
- ② 加工現場における高精度検査及び品質管理
- ③ 接合加工技術研究会など各種研究会での活用

3. 実施事業

- (1) 機器名:多関節型3次元測定機(移動式)
- (2) 型式:小坂研究所製 ベクトロン VMC6646Mpls
- (3) 仕様:
 - ① 測定範囲:3500[mm](X軸)×3500[mm](Y軸)×3200[mm](Z軸)
 - ② 測定精度:有接触測定 0.04[mm]、非接触測定±0.07[mm]
- (4) 特徴:
 - ① 人間の腕のように動くアームで狭い現場でも自由自在な測定が可能。
 - ② キャスター付台車により測定対象物まで楽に移動が可能。
 - ③ 加工現場での大型部品や重量物の形状・寸法測定が可能。
 - ④ 接触式と非接触式が切替可能で、変形を嫌う製品の測定に対応。
 - ⑤ 測定対象物の色、材質、性状などは問わない。
 - ⑥ CAD上で図面データと測定データとの重ね合せにより、自由曲面形状の測定評価が可能。
- (5) 利用料金:1,800 円/1 時間

9. 食堂事業(特別会計)

1. 収支決算額

- 収入決算額:62,182,969 円 (予算額:74,311,000 円)
(事業収入 60,005,033 円、雑収入 2,177,936 円)
- 支出決算額:61,682,125 円 (予算額:73,811,000 円)

2. 事業の成果

・売上金額については、多目的ホール利用のパーティーが 520 万円減少したが、レストラン貸切パーティーやランチタイムの売上げ増加により、全体で 87 万円の減少となった。

・利用客数については、館内研修室などへの弁当や飲食出前が 2,600 人増加、レストラン貸切パーティー1,100 人増加となり、館内利用者へのサービス提供として成果があったものとする。

3. 実施事業

レストラン売上高の推移

(単位:円)

年 度	事業収入	雑収入	合 計
平成 21 年度	60,005,033	2,177,936	62,182,969
平成 20 年度	60,878,746	2,297,244	63,175,990
平成 19 年度	65,907,982	2,087,173	67,995,155